所沢市立美原中学校

学校だより No５

令和６年度　第５号
９月　　２日（月）

学　校　教　育　目　標
・進んで学ぶ生徒（知）
・心豊かな生徒（徳）
・たくましい生徒（体）

「得（え）るは、捨（す）つるにあり」　２学期 始業式 式辞より

夏休みも終わり、いよいよ２学期が始まります。ご存じの通り今学期は、１年間の中で一番長い学期となります。この期間で、学校は、時間をかけて「**知**（学業を育む）、**徳**（豊かな心を育む）、**体**（生涯にわたって健康の保持増進をする力を育む）の獲得を目指し、充実した学校生活を目指すことになります。

それでは、具体的に話をしていきましょう。「知」ですが、一日一日の授業を大切にしながら、自分の知らないことをを知り、学ぶ楽しさを重ねることです。美原中学校の先生方は、この３年間「**子どもの学習は、常にその子どもが今何を考え、感じ、求め、困っているかなどの点を出発点として、授業の進むべき方向を考える**」*という学校経営理念のもと*、先生方は、そのことについて研修を重ね、考え・悩み・相談するという研究を重ねています。近いところでは、９月２日（月）に授業研究を行います。他校には、公開授業をしないつもりでしたが、この志に共感した数校の小・中学校の先生方より参加希望の問い合わせがあり、最小人数の参加で了解しました。近隣の小･中学校からの来校者もあるかもしれません。たとえ多くの先生方が参観されても緊張しなくてよいのです。授業に集中して取り組みましょう、むしろそれが大切な礼儀です。今学期は、更に１日、１時間、１瞬の学習時間を積み重ね着実に力をつけてください。

次に「徳」です。豊かな心を育むとは、多くのことがあるのですが、今日は、代表的なものだけ触れておきます。２学期は、美原祭・体育祭と全校で取り組む学校行事があります。このような学校のカリキュラムのことを、特別活動と言います。その中で、美原祭や体育祭などのことを学校行事と呼びます。学校行事の目標は、「集団が一つの目標に向かい歩みながら、生徒ひとり一人が協力し、ひとり一人の個人がどのように、その集団（社会）と関わり自分の強みや他人の良さを考え、認めながらながら活動していくかというものです。すなわち、この実践を通じて公共の精神など多くのことを学ぶことができます。この取り組みの進行には、途中で特別活動の区分にある学級活動の方法（話し合い等）も必要になり、これを通じて豊かな人間性の獲得や集団で物事を成し遂げる力や違う意見を捉え合意形成ができる力の育成も期待されます。間違ってほしくないのは、「終わりよければすべてよし」の言葉の解釈です。見せかけの結果のみを求めて、形だけ整える方に気持ちが傾いていると心を置き忘れてしまいます。私は、結果を軽視しているのではありません。肝心なことは、何のためにやるのか（目標や目的）を忘れてはいけない、ということです。少々大げさな言い方ですが、このようにして「生きる」とは、１分１秒の時間を紡ぐことです。形や表面的な結果だけで手間をかけずに得られた価値や結果は、人間らしさが消えてしまいそうで心配です。「手間をかける」ことは、人や物に丁寧に心をかけることで、そこに価値が生まれます。もちろん結果もです。たくさんの手間をかける経験を積み重ね中学校生活の貴重な１ページをつくってください。

最後に「体」です。この体には、心と身体のたくましさと健康が含まれています。心とは、先ほど述べた「徳」でも触れた内容も含みます。学校目標では、〇進んで学ぶ生徒　〇心豊かな生徒　〇たくましい生徒　の３つのうち、２つ

に直接連想されることが示されています。当然それぞれの目標は、関連しあっているものですが、人として重要なのは、体育祭の当日だけ頑張るのはなく、そこに至るまでの経験値が大切なのです。多くの大人が社会を生きた時、人としてこの内容が重要だと、認めてもらえたという経験をするはずです。

さて、今日は、3 つのことを中心にお話ししましたが、この話のまとめとして、最後に「**得(え)るは、捨(す)つるにあり**」についてお話し、まとめとします。

このフレーズを聞いたり見たりすると整理整頓の大切さだったり断捨離というイメージが先行しますが、そこだけでは、ないのです。調べるとすぐにわかるので、興味がある人は、調べてください。その意味は、いくつかありますが、私が考えるに一番近いものを「お話し」で紹介させてもらいます。

ある船乗りの話です。「重病人の船乗りがいました。自分が重病だとわかると気がめいり、何もかもどうでもよくなり、回復の兆しも見えず過ごしていました。しかし、あるきっかけで、その重病人が、自分は、船乗りだという天職を思い出し、船乗りは、船の上で死ぬべきだと決意し、命を懸けて船に乗りました。すると、なんと奇跡的に良くなる。」と言う話です。できすぎたこの話ですが、そう言わず、すこし考えてみてください。この話の中で得たものは、**何を得た**のでしょう。私は、重病人の船乗りは、自分のなすべきことは、何なのか自分の使命や天職を思い出し「このままでは、死ねない」と考えたと思いたいのです。私は、このような時にうまくいった例も願いが叶わなか例も知っています。病を患って仕事をやるのは、大変なことです。しかし、もし私だったら、私にとって大切だと考える人には、悪いことばかりを考えて行動しないとかではなく、**複雑に思い悩むことを捨て、自分のいるべき場所に戻り**、いやなことだったり、面倒だったりすることがあっても、やらなければならないことが使命だと感じ元に戻る事こそ、**生きる「気」**がよみがえる。と信じてほしいのです。

2 学期も未知のことを学ぶ皆さん、チャレンジする皆さんを応援し続けます。そしてそんな皆さんと過ごすことを楽しみにしています。さあ、美原中学校の本気の笑顔を体験できるようスタートしましょう。

令和 6 年 8 月 30 日　2 学期　始業式　式辞より

校長見聞録

新学期がスタートした。今年の夏も暑かったが、それでも 2024 年に戦後 79 年目の 8 月 15 日の終戦記念日は、訪れた。報道でも扱われたがオリンピックの同時期に開催されていたので例年より少なく感じた。毎年この時期に日本では、戦争に参戦した過ちを認め、人間の命の大切さを学ぶが、今年は、どうだったのだろう。日本や世界で被害を受けたものや人や物のその後の復興は、素晴らしいものだと思う。思想を超えたところで私個人として考えると、ここまで日本や世界の復興や発展を支えてきた方々に大いに敬意を払うべきものだと思う。しかし、私自身も戦争を体験したわけではないので、絶命の際を生きてきた方々やその経験をされた方々に「そんなに簡単なものじゃないと」言われそうであるが、これからの人々の命の方向性を決めるのは、人であってほしいと思っているので、やはり学校は、その役割を大きく担っていると思う。あることわざに「一年先は、花、10 年先は、木、100 年先は、人を育てる」というものがある。やはり未来を案ずるならば、古くから人を育てろと、その大切さには、間違いがないと再度、認識を新たにした。しかし、人を育てるのは、人である。「教育は、人なり」と言う教師ならずとも知っている有名な言葉があるが、子ども達にとってすべての人は、環境として影響を受ける学びの対象だ。私自身もいつも未来と過去を振り返り、今進めていることでよいのか、生徒のためになっているのかと考える。そんな時、今年関東大会で陸上の応援で東京の世田谷にある駒場オリンピック記念競技場に行く機会を得た。その応援後、40 年ぶりに近くにある吉田松陰を祀る松陰神社に出向きお参りをさせていただいた。ご存じの通り、明治維新で重責を担った伊藤博文や高杉晋作など多くの人材を輩出した松下村塾を主宰した方だ。私は、逸材を輩出したことは、もちろん偉業だと認識しているが、多くの人々に考え方や志を説いたと理解している。

不勉強があればお詫びします。